

第3回 ダム等に関する情報提供のあり方検討会 議事概要

日 時：令和6年3月22日

場 所：富山県防災危機管理センター2階 中会議室

主な意見 () 内は項目分類

「第2回検討会でいただいた意見」、「今後の情報伝達の想定」について

- 異常洪水時防災操作に関する事前の情報提供のタイミングについては、安全側かつ自治体から早めに情報をいただきたいというニーズを踏まえ、大雨警報とすることについて承知した。今後試行され、气象台と連携していただきたい。(Ⅱ)
- 有事の際には、住民の皆さんの円滑な避難行動に繋げていくことができるように、とりまとめていただいた具体的な取り組みについて、関係機関がより一層連携して着実に実行していかなければならない。(Ⅰ, Ⅱ)
- 事前の情報提供については、住民の方々に初めから関心を持っていただけるよう、行政だけで決めるのではなく、住民の方にも検討段階から現状を伝えていく必要がある。(Ⅱ)
- 事前の情報提供により、準備期間を大変長く取れるため、本当にありがたい。この時間を無駄にしないように、町としても、地域の方々にご協力いただきながら、有効に使えるようにしていきたい。(Ⅱ)
- 情報を早めに出すということは、素晴らしいことだと思っている。空振りの可能性が高まるが、毎年訓練していると思っただきたい。(Ⅱ)
- 富山県民は災害に慣れていないため、地元の町内会や婦人会等の形で、地域の人たちが参加し、訓練をどんどん行うことが非常に大事だと考えている。(Ⅰ)

「検討内容のとりまとめ(案)」について

- 今後、検討内容が具体的に実行されることが住民の皆様の安心に繋がっていくと考えており、住民の意識が下がらないうちに、こうした取り組みを住民の皆様にお知らせしていきたい。(Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ)
- メールの登録など、いろんな手段の情報伝達で工夫していただいているため、それらがきちんと有効なものになるように、町としても今後広報誌で特集を組み、情報伝達がどう変わるかを住民の皆様にお伝えしたい。(Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ)
- 行政だけではなく、住民の皆様の協力、あるいは様々な公的な団体や民間団体も含めて一緒に取り組んでいくためには、住民参加型の訓練が有効だと思っている。(Ⅰ)

- 次の出水期に向けて、県の情報提供の体制を変えているという PR について、県民向けに広報することが必要と考える。(Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ)
- 他の市町村の担当者にも、次に被災があるのは自分の市町村だという意識を持っていただかないといけない。(Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ)
- タイムラインには、住民の行動も書き込む必要がある。(Ⅱ)
- 気象庁では洪水予報を行う河川に対して流域平均雨量を作り提供しているが、来年度からはダムごとの流域平均雨量を提供する予定である。(Ⅱ)
- 気象庁が公表しているキキクルでは、川を自然な流れとして計算しており、ダムからの放流による危険度の表示が的確に反映されていないため、課題であると認識している。(Ⅱ)
- 住民の方がマイタイムラインを作るときに、ダムからの放流による下流への影響をハザードマップ等で見ながらできるとわかりやすいため、ホームページで見られるようになるとうい。(Ⅱ)
- ダム下流のハザードマップは、非常に誤解を受けやすいため、出し方を工夫しないといけない。(Ⅱ)
- 今回のタイムラインを実行することに加え、気象庁や国土交通省からの情報提供も充実してきていることから、活用できる情報がないか、情報収集を継続してほしい。(Ⅱ)
- 今回まとめていただいたことで満足することなく、役割分担と協働、自助・共助・公助をしっかりとやっていくことで、さらによりよいものができる。(Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ)
- 緊急時の都道府県と市町村との情報共有において、ぜひともビジネスチャットの活用を積極的にご検討いただきたい。(Ⅱ)
- セキュリティの問題もあるため難しいかもしれないが、住民の方もダムデータのだけでなく、ダムの CCTV カメラの映像を見られるようにできればよいと考える。(Ⅱ)
- タイムラインや連絡網などの個別の計画が乱立することで、マニュアル通りにいかななくなってしまわないよう注意しなければならない。(Ⅱ)
- 町では避難指示の検討の際に、気象庁のキキクルや様々なデータを分析し、議論しながらやっており、県のウェブサイトにもダムデータの情報を載せていただくことは、判断材料が一つ増えるのでありがたい。(Ⅱ)

- SNS で住民に災害の避難情報等様々な情報を流す際に、単に避難してほしいと言うだけではなく、ダム情報のリンクを貼ることによって、視覚的に把握できるので住民の方への伝わり方が違ってくると考える。(Ⅱ)
- これまで検討してきた内容を白岩川ダム、和田川ダムだけではなく、富山県が管理している全てのダムで確実に適用し、避難等に繋がるように、確実な実施をお願いしたい。(Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ)
- 白岩川ダムについては降雨の予測も不可能であり、時間的にも空間的にも局所的な事例だった。この会議を聞かれている自治体においても、白岩川はかなり特殊な気象状態だったということを念頭に置いて、今後の情報伝達の想定を考えないといけない。(Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ)